

平成 24 (2012) 年度「NGO 長期スタディ・プログラム」最終報告書

提出日	2013 年 1 月 11 日
氏名	中村 あずさ
所属団体	特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンドジャポン
受入機関名(所在国)	Pathways to housing(米国)
研修期間	2012 年 9 月 17 日～2012 年 12 月 15 日

研修テーマ	ホームレス支援 ハウジングファーストモデルのマネジメント方法について
全体研修目標	プロジェクト内容、マネジメント方法を学び、実際に自団体での活動において生かすこと

具体的な研修内容：

【研修内容の大枠】

全体理解

ハウジングファーストモデル概要について学習。

職員にインタビューの実行

日本と米国の違いについて理解を深め、日本での実現に向けて、調査とディスカッション

援助技術・援助の成果

職員研修に参加

支援効果について参与観察/インタビューの実行 支援の成果及び課題について明らかにする

多職種のチームのミーティングに参加。

援助対象者へインタビュー、訪問活動を行い、支援効果について研究する。

資料の読み込みや実際の政策提言の場を視察し、効果的な政策提言方法について調査を行う。

マネジメント

プロジェクトマネジメントの手法について学習

情報共有スキームについて研究

同団体同国他支部を訪問し、他地域においてプロジェクトを取り入れ発展させるためにどのような工夫をしているのかという点について調査を行う。

【各月ごとの目標と活動内容】

9月目標

アメリカのホームレス支援概要を学ぶ。研修先機関の概要を学び、全体の活動を把握する。支援活動に参加し観察する。

9月活動内容

研修セットアップのための準備等。ハウジングファーストモデルについての論文読み込み、アメリカホームレス支援施策の論文読み込み等 研修計画についての会議。ストリートペーパーによるリサーチ。

全体活動把握のため、毎日異なる活動に参加し観察を行った。

全日、スタッフの行うケースカンファレンスに参加。
スタッフや支援ユーザーとコミュニケーションを深める。
アウトリーチチームに参加。路上生活者に声をかけ支援を行う活動に参加・観察。
スタッフミーティングに参加・観察。
ACT チーム 3 に参加。薬物依存症者回復プログラムを観察。
ハウジングチームの活動に参加・観察。ハウジングサポートに関するマニュアルの読み込み。職員へのインタビュー。
就職支援チームの活動に参加・観察。

10月の目標

積極的な情報収集、資料読み込み、学習、ディスカッションなどを行い、支援内容について多角的に知り、考察を深める。

10月活動内容

全体把握の続き、まだシャドーイングしていないチームを観察。看護師の動き把握。行政機関との話し合いや精神科病院訪問、退役軍人プログラム視察。地域 ACT の連携会議参加。患者との対談など。

1つの ACT チームに所属が決定。患者やスタッフを継続的にフォローアップすることによって経過観察。ディスカッション。

11月目標

組織を多面的・構造的に理解を深め、運営方法について学ぶ。
クライアント・スタッフにインタビューを行う。

11月活動内容

クライアント、スタッフに、適宜時間を取ってもらい、事業についての考えをインタビューを行った。クライアントへの支援面接を自身でも行った。

まだ参加したことのなかったチーム (Intensive Case management team) のシャドウイングの実行。職員研修に参加。

団体によるサンクスギビングパーティーに参加。お手伝い

12月研修目標

同団体が他支部やルーツである本部においていかに同じプロジェクトを行っているのかの視察。日本で同様のプロジェクトを行うことの模索。

12月活動内容

Pathways to Housing フィラデルフィア支部を訪問。

街中の様子の見学と、スタッフへのインタビュー・ディスカッション。ACT チームシャドウイング。

Pathways to Housing ニューヨーク (本部) を訪問。ACT チームシャドウイング。精神科医とのディスカッション。ピアサポーターの活躍する「リソースセンター」訪問。スタッフへのインタビュー。

団体創設者へのインタビュー。インターナショナルネットワーク担当者とのディスカッション

Pathways to Housing DC スタッフへのインタビュー・ディスカッション。

研修の成果：

【総括】

「ハウジングファースト」は、最先端の精神医療モデルを多角的に組み合わせた日本には存在しない支援モデルであり、更に、支援の効果を裏付ける研究が数多くなされ効果が実証されている学ぶ価値の高い実績ある支援モデルである。そのような支援を行う団体に密に3か月参加できたことはそれ自体で大きな成果となった。

同支援モデルについては、ウェブサイト等の情報で理念やプロジェクトについて多少の知識はあったが、実際に訪問し、視察し、参加して初めて理解できたことが殆どで研修に参加しなければ本当の意味で理解したことにはならず、実践に生かすところまではできなかったと考えられる。

実際に視て学び、自分自身が参加・実践することにより、体験的に学ぶことができ、不明点についてその場でディスカッションすることができ、具体的な情報を多く獲得したことは大きな成果である。

また、その場に身を置くことにより、マネージャーの立場の人、多職種の支援者、支援対象者などそれぞれの視点から、多角的に同プロジェクトを理解・学習することができたことも大きな成果である。

さらに、団体に長期的に参加することにより、団体のスタッフとの信頼関係を築くことができ、今後自団体での実践に大きなバックアップをお願いできる約束を戴けたことも今回の研修の成果である。

また、一つの場所だけではなく他の場所においても同理念同プロジェクトが、それぞれの場所においてそれぞれの個性を持ちながらも実践されていたことを確認できたことも、自身が実践することを想像するために役立った。

現場では、働いているスタッフも利用者ももちろん楽ではない日常を送っているが、日々の小さな変化を楽しんでいたり、自身の仕事・回復にプライドを持っていたり、支援自体は安定性を持って小さくない規模で続けられていることも見られたことが、頭で理解・賛同できるだけでなく「深く信頼が抱ける実践である」と、自身の中に確信を持つことができ、今後自信を持って自国・他国に紹介できると思えたことが本当に良かったと思う。

最後に、個人的な話ではあるが、NGOにおける活動は行政など一般的な支援が行き届いていない未開拓の分野を対象としているため、先行モデルは乏しく、自身も仲間もいつも迷いながら手さぐりで活動を行っているが、今回先行モデルから方向性を確認でき、海外に先輩とも同志ともいえる人ができたことは大きな支えと励ましになった。今回の研修は今後の自団体の活動の飛躍の大きな後押しになるに違いない。

【各月ごとの成果】

9月成果

今月の目標は概要を知ることであり、網羅することであったが、それぞれの活動の1部門に1日ずつ参与観察することで一方では、当初の予定を超えてかなり具体的な内容や支援方法まで、学ぶことができた。また利用者が支援を利用してその結果どのような生活をしているのか、生の声を聴き、実際の場を見ることができ、支援の成果についてもかなり具体的に観察することができた。

一方でこの団体の活動が多岐に亘っているため、9月だけでは、支援の参与観察を行いながら、全ての活動を網羅することができないため、支援の具体的な内容や方法についても学びつつ10月にかけて活動の網羅を引き続き行うこととした。

10月成果

今月は資料やデータベースの記録の読み込みを行い、知識を広げつつ、日常で行われている支援内容を先月よりも深く理解することができた。またクライアントとも徐々に信頼関係が構築されてきて、コミュニケーションの機会も増えてきて、11月に行いたいと考えているインタビューの布石を打つことができた。また団体内だけでなく行政機関や他団体との連携会議にも参加させてもらい、どのようなつながりのなかで支援が実現されているのか、俯瞰的に観察・理解することができた。

受入団体が何をめざし、具体的にどのように実現されているのか、かなり綿密に理解できるようになってきた。

11月成果

当月は Intensive Case Management チームに参加したことにより団体のすべてのチームをシャドウイングしたことになり全体の網羅が完了した。支援面談を自身で行い実際の支援に参加することができた。クライアントとスタッフへのインタビューを行ったことにより、プログラムについてまた違った視点を与えられ考察を深めることができた。

団体マニュアルや読み込み、職員への研修に参加することにより、団体運営のマネジメントや理念について理解を深めた。

12月成果

今月は同団体他支部を訪問し、同じ理念で他の地域で同様のプロジェクトが行われている様子を視察することができた。高い理想を掲げながら、安定して事業が行われていること、他地域でも大きな規模で事業が展開されていることの戦略を学ぶことができた。それは理念や方法が確立していること。トレーニングの体制が整っていること。研究に力を入れ、エビデンスに基づいた支援体制を組むことにより、行政と協働し持続性のあるプログラムを行っていることなどであり、その事実や方法を知ることができたことは、日本で同事業を行う際の大きな学び・成果となった。

ニューヨーク支部を訪問した際に、スウェーデンにてハウジングファーストを行っている方にたまたま出会うことが出来、その様子をうかがうこともでき、各国の比較は参考になった。

ニューヨーク本部、DC 支部のそれぞれ中心人物に、今後日本での事業立ち上げについてアドバイスや協力を惜しまない旨、言っていただき、今後の大きな後押しとなりそうである。

本研修成果の自団体の組織強化や活動の発展への活用方針、方法：

- ・訪問看護ステーション設立支援（「ハウジングファースト」実践の足掛かりとする。）
- ・自団体での支援実践に研修内容を少しずつ取り入れ、事業開始の準備を行う。職員研修を行う。
- ・報告会や国際シンポジウムなどの啓発活動を行い、賛同者・協力者を獲得する。
- ・関連の他団体とディスカッションを行い協力団体を獲得する。
- ・マニュアル書を翻訳し、自団体や賛同者と知識の共有を行う。
- ・国立精神神経センター担当者、厚生労働省担当者などと実現可能性についてディスカッションを行う。

本プログラムや事務局側に対する提案、要望等：

NGO 活動を実際に開始すると、日常業務に追われ研修の機会を持つことはなかなか困難である。しかし、本プログラムにおいては生活面での保障もあり、期間や内容について自身で決定できることから、学習の機会を持つことができた。そのため無駄がなく最大限の効率で、自身にとって最も効果的な研修を行うことができた。このような機会が与えられたことについて心から感謝している。

私の要望はこのような研修の機会が多く、多くの NGO 職員のために今後も継続されていくこと、広く周知されることである。

その他：

(総合的に研修成果を理解するために、写真類、スタディ員が受入先機関に提出した報告書類等があれば、あわせて添付願います)

チームミーティングの様子



チームミーティングの様子。



サンクスギビングパーティーの様子

注射をする看護師。



薬物依存症専門家による居宅訪問



インタビューに応じたクライアントと共に



オフィスでの面談の様子



クライアントによるアートワーク



以上